

# 東京ベイ浦安市川医療センター

## センター長に就任して

センター長  
**神山 潤**  
(医29・昭56卒)



昭和56年卒（東京医科歯科大学医学部29回生）の神山（こうやま）です。卒業後は小児科学教室で矢田教授、水谷教授のもとで勉強させていただきました。平成16年からは社団法人地域医療振興協会に移り、東京北社会保険病院の開院に開設準備室段階から関わり、平成20年からは院長も拝命しておりました。東京北社会保険病院では水谷教授のご高配により、多数の小児科医を派遣していただき、24時間365日小児科医による小児医療を供給することができました。この場をお借りして深謝申し上げます。

このたび浦安市川市民病院の経営が社団法人地域医療振興協会に移譲され、病院名も新たに民営病院として再出発するにあたり、昨年10月に開設準備室本部長を拝命、この4月のセンター長就任に至りました。この機会に同窓の諸先生方に、一言ご挨拶申し上げます。

浦安市川市民病院の歴史は大正2年の伝染病隔離病舎開設にまでさかのぼり、その後昭和24年に隔離病舎の一部を改造し同愛診療所を開設、昭和26年に葛南病院として開院し平成9年に浦安市川市民病院と変更されました。葛南病院という名称にはなじみのある先生方も多いことと存じます。

浦安市川地域には3次医療機関としては順天堂大学浦安病院があり、浦安市川市民病院は3次医療機関と初期医療とを結び付ける、地域の救急医療の中核病院としての役割を担い、平成19年度には年間3000台近い救急車を受け入れています。この浦安市川市民病院も多くの自治体病院同様厳しい経営状況のなか、民設民営を選択、公募の上、平成20年10月に後継法人として社団法人地域医療振興協会が選定された次第です。

社団法人地域医療振興協会は昭和61年に自治医大の卒業生が中心となって設立した法人で、その設立趣旨は「へき地等の医療の確保と質の向上を図りもって地域の振興を図る」です。地域おこしを保健、医療、福祉の一体を念頭に、医師、看護師確保（雇用力アップ）で図ろう、というものです。会長は高久史磨自治医科大学学長で、職員数5000名、所属医師数550名、運営施設は平成21年4月現在40を越えています。

東京ベイ浦安市川医療センターは、公募条件に従い、現在の病院敷地内での平成24年の新病院（344床）開設を目指します。ただし工事期間中の診療の継続も公募条件であり、21年4月以降の3年間は48病床（混合病棟1病棟）での縮小運営となります。

東京ベイ浦安市川医療センターは東京メトロ東西線浦安駅下車徒歩7分です。お茶の水からは丸ノ内線大手町乗り換えで片道30分ほどです。同窓会の先生方におかれましては、3年後に344床でオープン予定の比較的距離的にも近い総合病院に同窓の一人が管理者として勤務している、ことを知っていただければと思います。何かとお世話になることも多いかと存じますが、なにとぞよろしくお見知りおきのほどお願い申し上げます。

東京ベイ・浦安  
市川医療センター長

「つやま じゅん

神山 潤 さん

東京都中央区



## 患者の声に耳を傾け「わが地域の病院」に

幼いころに看てもらった開業医がとて  
も好きで、自然と医師の道を志した小児  
科医。浦安市川医療センターを運営する  
地域医療振興協会の東京北社会保険病院  
長を務め、昨年十月から同センター開設  
準備室長として奔走してきた。

長く地域に愛され必要とされてきた市  
民病院の後を継いだ。民営化のメリット  
は「スピーディさ」。患者のために即断  
即決し、ダイナミックな医療サービスが  
提供できることを、大学病院から同協会  
に移り、実感した。

「患者の話をあまり聞かない医師がい  
ることは、お互いにとって不幸なこと」  
と、コミュニケーションを重視。地域の  
人々に「わが地域の病院」として育てて  
もらえるように、患者の声に耳を傾け、  
医療者と患者がよりよい関係を築ける病  
院運営を目指している。医師も一人の人  
間であり、モチベーションが影響する。  
「職員が安心して働ける場所を提供した  
い」と、医師の環境作りも念頭に置く。

「いまが年齢的に働き時」という五十  
二歳。世界一「遅寝遅起き」の日本の子  
供の実態に衝撃を受け「子どもの早起き  
を進める会」も発起。「きょうは何が起  
こるだろう」とワクワクしながら過す  
姿に、小児科医でさらに培ってきた物腰  
の柔らかさや人柄がにじみ出ている。